

# ものがたり

明治36年、3年間のアメリカ留学を終えた阿くりは、東京高等女子師範学校の教授となった。「女子体育を教える女性の教師」を育成すべく、スウェーデン体操、ダンス、バスケットボール等、当時の日本ではまだ未知のスポーツを学生たちに教え、世間から注目をあびていた。

しかし、女性が運動することへの理解が無い時代。新聞で教育方針をたたかれたり、ブルマー先生と陰口を言われたり、むずかしい立場に立たされる。

その頃出会ったのが若き軍人、松橋倫太郎だ。夢を追いかけて走る阿くりと、保守的な家庭に育って夢をあきらめた倫太郎。倫太郎が阿くりの窮地を救い、

2人は惹かれあうようになる。しかし、ロシアとの開戦がじりじりと近づいていた。それは世界の平和を願う祭典であるオリピックがアメリカで開催される年でもあった。日本のオリピック参加、そして女子選手の参加を夢見る阿くりにとって試練が続く。いつも笑顔を忘れない阿くりだが……。

# スポーツの楽しさと

# 夢を伝えたブルマー先生奮闘記



## 劇場からの帰り道、皆様の心にきっと青空が広がると思っています

「日本女子体育の母」と呼ばれる秋田出身の井口阿くりさんは、明治32年にアメリカに留学し、スウェーデン体操を日本に広めたスーパーエリート・スポーツウーマン。そして、体操服のブルマーを日本に初めて紹介した人でもあります。阿くりさんが夢見たのは、スポーツの力で皆が生き生きと暮らせる社会。今は女性アスリートの活躍も珍しくありませんが、120年前は女性が運動するなんて恥ずかしいと思われていました。そんな逆風の中、阿くりさんがスポーツの楽しさを伝えるために奮闘する姿がミュージカルになっています。この舞台には体操、ダンス、バスケットボールなどのシーンがあり、スポーツ観戦のような〈スリル〉と、歌やお芝居の〈ときめき〉の両方が詰め込まれています。思いきり楽しんでいただけたら、劇場からの帰り道、皆様の心にきっと青空が広がると思っています！

脚本・作詞：高橋知伽江

東京外国語大学ロシア語学科卒。劇団四季の勤務を経て、フリーランスでミュージカル台本の執筆、翻訳、訳詞を手がける。2013年4月～2017年3月、水戸芸術館演劇部門芸術監督。第4回小田島雄志・翻訳戯曲賞受賞（ノエル・カワード作『出番を待ちながら』、『秘密はうたう』）。第23回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞（劇団四季『アラジン』訳詞）。主な執筆脚本：『鶴姫伝説』、『誓いのコイン』（以上、坊っちゃん劇場）、『手紙』（東野圭吾原作）、『夜のピクニック』、『生きる』（黒澤明監督の同名映画脚色）、『バケモノの子』（劇団四季）。最近の翻訳：『アラジン』『ノートルダム大鐘』『パリのアメリカ人』（以上、劇団四季）、『GHOST』、『アリージャンス〜忠誠』他。その他、ディズニー映画の訳詞も手がけている。『アナと雪の女王』、実写版『美女と野獣』、『塔の上のラプンツェル』、『魔法にかけられて』など多数。



「体操着ブルマーとセーラー服を日本で初めて導入したのが私です。」



初演舞台より



### CAST

久保田 美宥

小山 雄大

渡辺 哲

瀬川 舞巴

佐藤 千明

小松 詩乃

黒木 真帆

## 劇団わらび座

〒014-1113 秋田県仙北市田沢湖卒田字早稲田430  
 〈TEL〉 0187-44-3332 〈FAX〉 0187-44-3318  
 〈Mail〉 info@warabi.or.jp  
 〈WEB〉 <https://www.warabi.jp/>

**わらび座とは** 1951年の創立以来、日本の民族伝統をベースに、多彩な表現で現代の心を描く日本のミュージカルを多数制作上演している。複数の公演グループで、年間800回以上公演を行っている。海外での公演も19ヶ国にのぼる。本拠地である秋田県仙北市の「あきた芸術村」のわらび劇場では、オリジナルミュージカルを上演、温泉やホテル、クラフトビールブルワリー、体験工房が立ち並び、教育旅行の受け入れは40年以上の歴史を持ち、毎年150校の子どもたちが「あきた芸術村」を訪れている。近年は、演劇スキルを使ったコミュニケーション力向上を目指すシアターエデュケーションを、業種や世代を超えて行っている。2021年、多くの方々に支えられ、創立70周年を迎えた。